

空に向かつて進め ● 森山なつめ

晴れの日にあはせてアポを組んでゐる海岸線のドライブのため
雪とけてひしやげたままの標識が空に向かつて進めと示す

おほぞらにこゑをのこして白鳥はこちらのほうが北とをしへる
斑雪消えぬし春のバイパスに畑とともに墓のあらはる

植ゑらるるまでのひととき朝の田はひたひたと空を映してをりぬ
ただそこに生まれしがゆゑ山道に今年も咲いてゐるタニウツギ
山あひの限界集落あかるくて名もなき草のふ、ふ、とそよげる
原つばを抜ければ海辺の目的地ふたたびひとのかたちして立つ
五十キロへだつる土地の方言の葉うらの産毛のやうなてぎはり
駐車場の隅のひびわれ かげひなた行きつ戻りつたんぼほの揺る
のびやかに猫はうらがは見せてをり海風はしるアスファルトの上
灯台の影濃くあをくうねりたる岩をたどればふつとくらやみ
昨夜の雨に濡れしさみどり若鳥の嘴のごとくにわれに迫れる
午後の陽に橋やはくして細胞のはらほろほと崩るる心地す
いちめんのほのほとなれる水田のゆふぐれどきを統べて走りぬ